

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈4月17日（金）放送分〉

テーマ「読書①」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、「読書」シリーズの第1回目です。「読書」シリーズは、絵本・児童書、一般、郷土、子育て・教育支援、世界遺産、海音寺文庫などからおすすめの本を紹介します。

シリーズの第1回目は、この春、奄美大島に転入してきた方も多いと思いますので、奄美に関する本4冊を紹介します。

まず、1冊目は、いもとようこさんの絵本『とんとんとんのこもりうた』です。奄美大島と徳之島にしか生息しないアマミノクロウサギのお話です。アマミノクロウサギは、特別天然記念物としても知られています。

森の奥深くの小さな穴の中に、赤や黄色のたくさんのやわらかい葉っぱがありました。その上にすやすや眠っている赤ちゃんうさぎ。母さんうさぎは、赤ちゃんうさぎのほっぺにキスをして森へ帰っていきます。目が覚めた赤ちゃんうさぎは、真っ暗な穴の中で母さんうさぎがいないことに気付き、何度も母さんをお呼びますが返事はありません。悲しくて泣いてしまいます。次の日、母さんうさぎは、おっぱいを飲ませるために穴の中へやってきます。しかし、おっぱいを飲ませ終わるとすぐに森へ帰っていきます。赤ちゃんうさぎは、母さんうさぎと一緒にいたいと言いますが、母さんうさぎは、穴の入り口の土を長い時間をかけてふさいでいきます。「とんとんとんかわいいぼうや、とんとんとんぐっすりおやすみ」と優しく子守歌を歌いながら。

絵本を通して、外敵から子どもを守ろうとするアマミノクロウサギの愛情の深さが分かり、読み終わると優しい気持ちになる一冊です。

2冊目は、西野嘉憲さんの『ハブの棲む島』です。猛毒のへびで人々に恐れられているハブ。ハブを捕獲することを仕事にしているハブ捕り人の中で「伝説のハブ捕り名人」と言われている南竹一郎さんを追った、自然との共生を描いている写真絵本です。草履でどこにでもはいつていくのは南さんならではのスタイル。自然と一体となった独自のハブ捕りのスタイルと、奄美の森への深い愛情に敬意を表して、島の人々は南さんを「ハブ捕り名人」と呼んでいます。「奄美の森はハブが守ってきた。」と語る南さんの言葉の意味が本を通して分かってきます。奄美の自然の美しさと迫力あるハブの写真も注目です。

3冊目は、仁木英之^{に き ひでゆき}さんの『水平線のぼくら 天使のジャンパー』です。奄美大島の高校生桐隆文^{きりたかふみ}は、ある日、島の崖^{がけ}から海へジャンプする少女を目撃します。隆文は、慌^{あわ}てて近くを探しにいきますが少女の姿はどこにもありません。しかも、奇^き妙^{みょう}なことに飛んでいた少女の口元は微^{かす}かに笑っていたのです。早速、隆文が友達^{ともだち}の洋介に話すと「くいんむん」だと言います。くいんむんとは、奄美で一般的にケンムンと言われている妖^{よう}怪^{かい}のことです。洋介の言うことはにわかに信じがたい隆文でしたが、後日少女と再会することになります。隆文の学校の転入生、高橋麻巳^{たかはしあさみ}でした。不思議な雰囲気をもつ麻巳でしたが、隆文の幼馴染^{おさななじみ}で水泳部のエースである映見^{えみ}に勝負を挑みます。それは、400メートル個人メドレー。この勝負に勝った麻巳は、ノルディックスキー部の創設を宣言します。南国奄美の地でスキーの練習に励む麻巳、隆文、映見、洋介。この後、島の人たちもまきこみながら奄美にスキージャンプ台がつくられることに。クライマックスが近づくにつれ麻巳の正体が少しずつわかってくる隆文たち。高校生のさわやかな友情を感じながらも切なさが残る一冊です。

最後は、大野隼夫^{おおの はやお}さんの『奄美群島植物方言集』です。著者の大野さんは、笠利町の出身で理科の教員となり、のち県立大島北高校長、奄美高校長を歴任し、奄美の自然を考える会の初代会長、2009年には瑞宝^{ずいほうしょうじゅしょう}小綬章を受賞されました。

この本は、奄美に生息している669種の植物が方言で書かれています。同じ植物でも奄美群島内のそれぞれの地域で言い方が違うことがよく分かります。例えば、「がじゅまる」は、奄美群島全域では「ガジュマル」ですが、宇検村では「アマボーイ」、喜界町では「ガジマラー」、瀬戸内町では「カトウマル」、大和村では「ヨージュ」という言い方になります。また、方言だけではなく植物の科名・和名、特徴も詳しく書いてあります。暖かくなり様々な植物をあちらこちらで見かけるようになりました。見つけた植物を方言で言ってみるのはいかがでしょう。きっと楽しいと思いますよ。

県立奄美図書館には、まだまだ奄美に関する絵本や児童書、一般書など多数あります。

皆様のご来館を心からお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。